

学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 難しい課題でも、創意工夫しながら解決し、挑戦しつづける子

堺市立向丘小学校
校長 伊藤 秀郎

令和5年度 重点目標 「ゆたかな心 たしかな学び」 めざす子ども像 「自ら考え行動し チャレンジできる子」

○ゆたかな心の育成（全学校生活の中で育むもの） ・ いじめが起こらない集団づくり ・ ゆたかな人権感覚と道徳性の育成 ・ 自尊感情の醸成・感動する心の醸成（行事・授業を通して） ・ 自分となかまを大切にする心（挨拶の励行・話し方）

〇たしかな学びの育成 ・ 深まる研修／「貯める」研修 ・ GIGA スクール構想のもとでの「どの子にも分かる授業」 ・ 感動できる授業／山場のある授業 ・ 基礎学力の育成 ・ 学習ルールの徹底 ・ 読書活動の推進 ・ 指導と評価の一体化

・ 形成的評価の重視 ・ 不登校の減少 ・ 健やかな体の育成（体力の充実） ・ 授業公開／校内研修

○学校マネジメント力の向上 ・校務分掌力の向上 ・「チーム力」・「教師力」 ・学校職員の働き方改革の推進 ・GIGA スクール構想による、ICTを活用した業務改善 ○地域・家庭との協働 ・参観／懇談をとおした連携

「確かな学び」の現状

基礎学力を大切に、それらを土台に次の学習を丁寧に積み重ねていくよう、「学校」・「授業」の基本に戻って、再度学校での「学び」とは何か、ということについて考えていかねばならない。校内研修では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を模索していく必要がある。また、学校生活全般で豊かな感受性を養い、感動することを通して児童の変容が見られる授業をめざし、何事にも「自ら考え（正しく）行動し、（正しいことに）チャレンジできる」力を醸成していく。

「豊かな心・健やかな体」の現状

生活リズムを整えたうえで、他者に関心を持てるようにしていく。刹那的なその場限りの面白さを追い求めるのではなく、仲間と力を合わせて何かを成し遂げる喜びを分かち合える集団にしていく必要がある。そこには正しく意思を伝えること、それを正しく受け止めることが必要である。体育授業や体育的行事では、新型コロナ禍で落ち込んでいる体力面を考慮しつつ、体を動かす喜びを安全に感じられるようにしていく必要がある、また食育の推進で健やかな体づくりも進めていく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況 (年度末)					
								自己評価 A:教職員対象 B:児童対象 C:保護者対象	A/B/Cはアンケート対象者	学校関係者評価			
確かな学び	教科学力の向上	◎「どの子にもわかる授業」で自分の思いや考えを表現し、伝え合う力を育成する。	●基礎的な授業力の向上をはかるとともに児童一人一台PCを効果的に授業で活用する。ノートグラブリを行い、自分の思いや考えを相手に伝わるように表現する力をつける。 理科 (5.6 年)、外国語授業 (3～6 年) 等の専科授業を行い、論理的思考力の伸長と国際理解の深化を図る。	研究授業・研修の内容と実施状況／PCの児童の活用状況。 ノートグラブリの実施状況。	実績と学力調査・学校アンケート	2月	○	1～6年生での研究授業、自主研修、より一層の一人1台タブレットの活用を推進している。	A	A「どの子にも分かる授業を心かけた」100% なお、教職員対象アンケートでの、ICT 活用・ノートグラブリの項目は、授業を受け持っている教職員の肯定率は高い。B:「学校の勉強はよく分かる」90%	A	・先生方は頑張って子どもたちが分かるようしっかり指導・支援の努力をされている。10%の児童が勉強が分かるかどうかは肯定的ではない回答。この割合が減ることを期待している。・タブレットを活用した授業を行うことで手書き (アナログ) とツール活用 (デジタル) の垣根をなくしてほしい。・ノートグラブリの実施は、子ども自身が「字を丁寧に書く」「後から読み返しやすいように工夫しよう」と意識づけできる。また、脳にもなり表現力をつけるのに役立っている。・全ての子どもたちが分かる授業にするのは困難だと思いますが、先生方の努力は分かります。・グラブリノートは、掲示されている友だちのノートについて親子のよいコミュニケーションになっている。	
		◎「安全な、安心できる環境」かつ静謐な学習環境のもと、家庭学習の習慣化、読書活動などにより自ら学ぶ児童の育成	●自尊感情をもって学習に励むことができる。 ●正しい姿勢で学習に向かうことができる。 ●学習規律を確立し、家庭学習の習慣化を図り、自学自習する力を身につける。 読書活動 (朝の読書、図書の時間) の充実と学校図書館の活用	観察／学力調査や児童アンケートで肯定的評価 85% 学力調査や学校アンケートなどで肯定的評価 85% 学力調査などのアンケート	学力調査・学校アンケート	2月	○	「正しい姿勢での学習」について研修委員会で話し合い、朝礼でも指導した。 「ムコベン」の継続、働き方改革のなかでも、児童への宿題はやめないこと。 朝読書の徹底、絵本隊・ウーフの会との連携、図書ボランティアさんとの連携等。	A A A	B:「学校は楽しいですか」92%、「学校で自分が活躍できる場面がある」84%、「すすんで家庭学習に取組んでいる」87%、「本を読むことが好き」83%、「すすんで挨拶」89% 89%、C:「クラブ・委員会に主体的に取組んでいるか」86%、「お子さんは挨拶ができているか」82% 図書関係の地域のボランティアの方々とは連携できている。また、各学年への地域の方からの授業も行うことができた。	A A A	・基礎となる知識がもっとついてくれれば子どもたちが体来持っている自己向上力をもっと上がり、子どもたちが将来のために必要な事柄も自主的に学べるようになると思われるので、先生方は大変だと思いがちで頑張っていました。・コロナ禍でなかなか出来なかった事を実施し、これからはもっともっとコミュニケーションが実現するよう、願っています。・授業内で、意図的に自習時間を設定することでムコベンのさらなる向上が望めるのではないかと考える。・先生方が工夫し、楽しく分かりやすい授業を行ってくださっているお陰で、「ムコベン」に自主的に取組んだり、何より学校が好きで、日々、生き生きと生活したりしていることを心から嬉しく思っています。・読書をよくする子どもたちの数が増えないうちは残念ですが、絵本の読み聞かせは続けたいと思います。・民生委員の授業や、認知症キッズサポータの授業もとてもしっかり学ぶことができていて、いつも感心している。	
	社会的実践力の向上	◎学校・地域の行事等で主体的に活動する児童の育成	クラブ、委員会活動・校外学習・地域行事などで子どもの居場所と出番を確保する。また、地域の方々から学ぶ機会をつくり、地域の方々との交流を深める。	観察／学力調査・学校アンケート (児童・保護者対象) で肯定的評価 80%	学力調査・学校アンケートなど	2月	○	老人クラブ との交流、守屋池の授業、民生委員さんの授業、認知症キッズクラブ、絵本隊、安全委員さんの立番、クラブボランティアさん等。	A				
		豊かな心 健やかな体	自尊感情の育成	生活習慣の確立と生活習慣の育成	◎児童が安心できる居場所となる集団の形成	道徳や人権教育に取り組み、豊かな人権感覚を育む。いじめが起こらない集団づくりをおこなう。	実施状況・指導状況及びアンケートなどで肯定的評価 70%	学力調査・学校アンケート	2月	○	ミニチュギハツキョ、平和学習に新たに取組んだ。特別の教科「道徳」の研究授業。	A	A:「道徳や人権学習に取組み、児童の人権感覚を育む」96% B:「学校で安心してすごすことができる」91% C:「学校は緊急時の保護者対応や交通安全について教えている」98% 但し、児童の実態から、まだまだこの項目については、改善の余地があると考えている。※ 「挨拶」については上記参照。
◎あいさつができ、場に応じた適切な言葉遣いのできる児童	あいさつの励行、話し方などに気を付けるとともに、情報機器の安全な使用を啓発する。				観察／学力調査・学校アンケートなどで肯定的評価 70%	学力調査・学校アンケート	2月	○	朝の挨拶運動、生徒指導重点項目を定め、指導している。	A			
◎体力の向上 ◎安全に対する意識向上	取組の状況とアンケート／生徒指導状況など				取組の検証・アンケートなど	2月	○	避難訓練、登校指導、下校指導等を確実に実施している。	A				
独自の課題	進	小中一貫教育の推進	◎中学校区のランドデザインに対応した小中一貫教育の実践	★「難しい課題でも、創意工夫しながら解決し、挑戦し続ける子」を育てるために3校の交流をすすめる、情報共有と課題への取り組みをすすめる。	取組状況と回数	実施報告	2月	○	夏季の3校交流での研修、健全育成、3校の校長打合せなどおこなった。	A	COMDAY を、新型コロナ禍以前のかたちに復活することができた。自治会等と一緒に行う行事についても、成功させた。また、地域の方々との交流しながらの授業や、クラブ活動についても行うことができた。3校合同研修や3校での校長同士の打合せを行った。	A	・地域とのつながりはとても密でありありがたいです。 ・コロナ禍で他校 (上野芝中学校・平岡小学校) とのかかわりが減っているため、コロナ禍より前以上に、つながることができるようにならばと考えています。
	推進	地域協働	◎地域を愛する健全な子どもを家庭・地域とともに育てる。	地域人材の活用 (クラブでの指導・読み聞かせ・図書館ボランティア・守屋池授業等) し、地域にねざした、学校教育をおこなう。	取組状況と児童の取組	実施報告	2月	○	老人クラブ との交流、守屋池の授業、民生委員さんの授業、認知症キッズクラブ、絵本隊、安全委員さんの立番、クラブボランティアさん等。	A		A	・地域イベントに積極的に関わり学校が向き合っている姿を見ることができた。 ・地域の関係者との活動は、視野を広げるという意味合いでも利用できる部分はたくさん利用すればよい。
	れた業務	ワークライフバランスの推進	◎児童へのよりよい教育をめざし、教職員がバラスがとれた業務を追究する。	学校で働く職員が、職場で安全・安心であること。また、学年や職種を超えて、挨拶や声掛けなどをおこない、早く帰宅できるようにしていく。	実施状況とアンケート	取組の検証と学校アンケートなど	2月	△	管理職を含む教職員同士のつながりは、まだまだ深められる余地がある。良き教員文化を伝達しなくてはならない。	B	A:「ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方」85% A:「安心して安全に働くことがきえているか」93% ⇒ これらは100%をめざしたい。	B	・この学校で長く働きたいと思えるように (管理職も) 努めてください。 ・「働き方改革」は学校だけでなく、その会社も抱える問題です。何かいい案があればいいのですが、難しい問題です。
校長より (年度末)									学校関係者評価者から (年度末)				
具体的な目標として掲げた部分に関しては、学年末アンケートの結果や教育活動の実績から振り返れば、達成できているように思われるが、学校全体として見たときには、組織として学校教育に関わる課題はたくさんあり、それらを解決して成果を児童一人ひとりに返していく必要がある。国や市の政策に基づきつつ、さらに向丘小学校の良さ伝統を守りながらもカラーを出し、児童の成長にしっかり寄り添えるようにしていかななくてはならない。今年度の成果と課題は、児童一人ひとりについて、もっと細かく、より寄り添ったかたちで具体的に振り返り、来年度に生かしていく必要があると考える。									・今年度から 20 分休みが 15 分休みに短くなり、来年度低学年の授業時数が削減されると伺っております。先生方の働き方改革につながれば、と思っています。 ・地域とのつながりはとても密でありがたいです。				